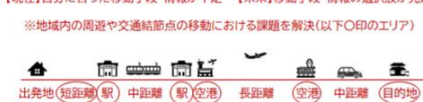


【Universal MaaS～誰もが移動をあきらめない世界へ～】

移動躊躇層(※)が抱えている課題を、[Universal MaaS](#)のコンセプトに従って利用者と事業者双方の視点から解決し、行動変容を促すことにより新たな移動需要を喚起する。2020年度の実証実験結果を踏まえ、順次社会実装を進める。
※何らかの理由により移動を躊躇している方々。2021年度は下肢障がいに加え視覚に障がいのある方々も対象に実施。

協議会の 構成員	【構成員】 全日本空輸（幹事）、京浜急行電鉄、横須賀市、横浜国立大学 【実証実験パートナー】 東日本旅客鉄道、東京モノレール、エムケイ、損害保険ジャパン、プライムアシスタンス、Ashirase、ANAウィングフェローズ・ヴィ王子 他、右記URLの数十社を予定 https://universal-maas.org/partner										
地域課題	介助やサポートを必要としている利用者への対応が、自治体・地域や事業者ごとに大きく異なっており、また各交通事業者や施設管理者との連携方法が定まっていなため、移動躊躇層における自律的なdoor-to-door移動が不便（全国的な課題ではあるが、まずは特定の利用者、自治体・地域、事業者を対象を絞って課題解決を行う）										
事業概要	<table border="1"> <tr> <td>期間</td><td>2022年2月3日～2月28日</td></tr> <tr> <td>エリア</td><td>①山手線周辺⇄羽田⇄伊丹⇄京都/大阪/神戸 ②横須賀市内⇄羽田空港T1/T2駅</td></tr> <tr> <td>MaaSシステム</td><td>既存の経路検索サービスに以下機能を実装 ①オンライン一括サポート手配 ②リアルタイムバリアフリー地図/ナビ</td></tr> <tr> <td>交通サービス</td><td> - 公共交通領域だけでなく、地域内の周遊や交通結節点の移動も含めたdoor to doorナビの提供 - 自分に合ったルートを選択・保存し、旅程管理や介助手配状況の確認を可能とする情報・機能の提供 - 介助を必要とする利用者が支援内容を事業者へ依頼し、事業者が回答するコミュニケーション機能の提供 - バリアフリー/ユニバーサル関連の移動手段との連携 </td></tr> <tr> <td>交通以外のサービス</td><td> - バリアフリー/ユニバーサルデザインに関連した移動支援サービスとの連携 - バリアフリー関連アプリとのAPI連携（地図・ナビ機能） - 自律移動支援サービスや支援機能との連携 - その他サービス、機能との連携（以下参照） https://universal-maas.org/partner </td></tr> </table>	期間	2022年2月3日～2月28日	エリア	①山手線周辺⇄羽田⇄伊丹⇄京都/大阪/神戸 ②横須賀市内⇄羽田空港T1/T2駅	MaaSシステム	既存の経路検索サービスに以下機能を実装 ①オンライン一括サポート手配 ②リアルタイムバリアフリー地図/ナビ	交通サービス	- 公共交通領域だけでなく、地域内の周遊や交通結節点の移動も含めたdoor to doorナビの提供 - 自分に合ったルートを選択・保存し、旅程管理や介助手配状況の確認を可能とする情報・機能の提供 - 介助を必要とする利用者が支援内容を事業者へ依頼し、事業者が回答するコミュニケーション機能の提供 - バリアフリー/ユニバーサル関連の移動手段との連携	交通以外のサービス	- バリアフリー/ユニバーサルデザインに関連した移動支援サービスとの連携 - バリアフリー関連アプリとのAPI連携（地図・ナビ機能） - 自律移動支援サービスや支援機能との連携 - その他サービス、機能との連携（以下参照） https://universal-maas.org/partner
期間	2022年2月3日～2月28日										
エリア	①山手線周辺⇄羽田⇄伊丹⇄京都/大阪/神戸 ②横須賀市内⇄羽田空港T1/T2駅										
MaaSシステム	既存の経路検索サービスに以下機能を実装 ①オンライン一括サポート手配 ②リアルタイムバリアフリー地図/ナビ										
交通サービス	- 公共交通領域だけでなく、地域内の周遊や交通結節点の移動も含めたdoor to doorナビの提供 - 自分に合ったルートを選択・保存し、旅程管理や介助手配状況の確認を可能とする情報・機能の提供 - 介助を必要とする利用者が支援内容を事業者へ依頼し、事業者が回答するコミュニケーション機能の提供 - バリアフリー/ユニバーサル関連の移動手段との連携										
交通以外のサービス	- バリアフリー/ユニバーサルデザインに関連した移動支援サービスとの連携 - バリアフリー関連アプリとのAPI連携（地図・ナビ機能） - 自律移動支援サービスや支援機能との連携 - その他サービス、機能との連携（以下参照） https://universal-maas.org/partner										
検証内容	以下URL（プレスリリース）内の＜検証内容＞参照 ①一括サポート手配 https://www.anahd.co.jp/group/pr/202201/20220125-2.html ②バリアフリー地図/ナビ https://www.anahd.co.jp/group/pr/202202/20220221-2.html										
取組イメージ	あるべき姿 ①公共交通移動における一括サポート手配の実現 【現在】各事業者へ個別に都度、連絡・確認 【未来】各事業者に一括手配  ②徒歩シーンにおける自律的移動の実現 【現在】自分に合った移動手段・情報が不足 【未来】移動手段・情報の選択肢が充足 ※地域内の周遊や交通結節点の移動における課題を解決（以下O印のエリア）  今年度の範囲  ①オンライン一括サポート手配・鉄道、航空、タクシー向けに提供 ②リアルタイムバリアフリー地図/ナビ・下肢障がい者向けの情報を強化・視覚障がい者向けの情報を提供										
検証結果	①一括サポート手配：各事業者に一括手配できるようになったことで、お客さまの事前手続きの負担が減り、また移動を躊躇する心理的障壁も下がった。一方、事業者側の既存業務オペレーションとの連動性に関する課題が大小抽出できたため、解決に向けて継続検証を行う必要あり。 ②自律的移動の実現（バリアフリー地図/ナビ） ・下肢障がい者向けの情報強化：有益性は確認できたが、表示方法に改善の余地あり。情報更新作業の詳細化と併せて検討することで、社会実装や他地域への横展開の可能性が広がる。 ・視覚障がい者向けの情報提供：利用者観点での有用性確認ができた。抽出した課題（システム・サービス設計）の解決に向け継続検証が必要。										
今後の方向性	①②共に、利用者からの評価や期待が予想以上に高かったため、2022年度以降の段階的な社会実装を目指す。 - 今年度の実証実験にて抽出できた課題の解決策検討、優先度づけを行い、社会実装に向けて実証実験やサービス・体制強化を図りたい。										